

日本学術会議地球惑星科学委員会・IUGG 分科会

IAMAS 小委員会

(第24期・第2回) 議事録

1. 日時：2018年10月29日(月) 12:00-13:00
2. 会場：仙台国際センター2F 控え室5・6
3. 出席者：中村尚[委員長]、浮田甚郎[幹事；議事録]、三好建正[幹事]、
塩谷雅人、高薮縁、佐藤薫、鬼頭昭雄各委員(計7名)
欠席：中島映至、近藤豊、江守正多、松本淳各委員

4. 配布資料

資料1 IAMAS 小委員会24期第1回議事録

資料2 IAMAS・IUGGに関連した最新の国内外情勢

5. 議事

[1] 第24期第1回会合の議事録(資料1)を確認した。

[2] 最新の国内外情勢に関する情報交換

中村委員長から資料2を用いて説明があり、i) 2019年7月にモントリオールで開催されるIUGG General Assemblyのプログラムが確定、発表要旨投稿の締め切りが2019年2月18日に決まったこと、ii) 地球惑星科学連合2019年総会(5月下旬)においてIUGG分科会がIUGG100周年記念イベントとしてJapanese Contributionについてユニオンセッションを開催すること、IAMAS関係の講演者として中島映至委員を推薦したこと、iii) 2021年7月に韓国釜山でIAMAS-IAPSO-IACS Science Assembly(MOCA-21)が開催されること、iv) 2023年のIUGG General Assemblyの開催地の立候補締め切りが2019年1月で、2019年7月IUGG Assemblyにおいて正式に決定される予定であることなど今後の日程を確認した。

[3] その他

その後は日本気象学会学術委員会と合同で、航空機観測、地球衛星観測、放射能汚染に関する対策、データ利用に関してそれぞれ情報交換、討議を行った。

日本学術会議地球・惑星科学委員会地球惑星圏分科会が主催した大型研究計画ヒアリン

グ(2018年3月28日実施)で受けた指摘を踏まえ、2019年3月のマスタープラン2020の申請に向けた日程を確認した(研究計画書の改訂版を2018年11月に公開、地球惑星科学委員会のヒアリングが2018年12月28日にそれぞれ予定されている)。

高裁委員を中心に、地球観測ミッションを政府に向けて提案することを目的とし「今後の宇宙開発体制のあり方に関するタスクフォース会合・リモートセンシング分科会地球科学研究高度化ワーキンググループ」がまとめた「地球観測グランドデザイン」について情報交換を行った。

放射能汚染に関して、学術会議における取り組み、学術会議と防災学術連携体との連携体制、原子力防災特に数値モデルの応用に関して意見交換を行った。

変化を遂げるネットワーク環境、オープンデータ化の流れの中で、気象学の教育・研究に資するデータのあり方、データアーカイブならびにデータ提供体制をあり方について議論を進めるために気象学会の中に設置されたデータ部会について情報交換を行った。